

国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度

ガバナー一月信

No.7
2009
1

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510 2008-2009 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度 ガバナー 矢橋 温郎 HARUO YAHASHI

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F
TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 e-mail:rid2510@nifty.com
ホームページ: <http://www.ri2510.gr.jp>



RI国際協議会(カルフォルニア、サンディエゴ)にて

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

目次

CONTENTS

- 1 ————— ガバナーメッセージ
- 2 ————— ロータリー理解推進月間(ロータリーの広報を考える)
- 4 ————— 第37回 ロータリー研究会報告
第37回 ロータリー研究会詳報
- 8 ————— 第37回 ロータリー研究会に参加して
- 10 ————— ロータリー財団地域セミナーに学んで
- 11 ————— 2009-2010年度GSEプログラム派遣団員募集締め切り迫る!
- 12 ————— 私の“Rotary Notes”
洞爺丸海難慰霊碑
- 14 ————— ガバナー補佐レポート
「IMを終えて」
- 15 ————— ガバナー公式訪問
- 18 ————— 地区WCS委員会報告
「モンゴル日本語教材寄贈事業2007-2008報告」
- 19 ————— ロータリー財団寄付
米山記念奨学会寄付
- 20 ————— 新入会員のご紹介
文庫通信
- 21 ————— 出席率・会員数
- 22 ————— 2008-2009年度 地区カレンダー
(2009年1月~6月)
- 23 ————— 地区委員会委員の追加について
例会曜日・例会時間・例会場の変更等について

ガバナーメッセージ



新年のごあいさつ

国際ロータリー第2510地区
ガバナー 矢橋 温郎
(札幌西RC)

■ ■ ■
本年もよろしくお願ひ申し上げます。

ロータリー年度では、今月から下期に入ります。任期の半分が終わってしまいました。あっという間です。公式訪問で走り回り、並行して地区大会の準備と本番。加えて今年度は大会終了後も12月まで公式訪問が残っていたので、上期は大変充実していました。我ながらよく身体がもつものだと感心します。地区大会はもちろん、公式訪問も自分自身で各クラブを訪問すると決めたからには、代役は立てられません。健康管理に注意し、とにかく途中で倒れることがないよう気をつけておりました。上期を無事終えて安心しましたが、酒井直前ガバナーもこの安堵感を共有してくださっていることでしょうか。なにせ私が倒れれば、代役には直前ガバナーが引っ張り出されることになっておりますので。

下期はといえば、ガバナー・エレクトへのバトンタッチのための期間でもあります。リレーに例えるなら、リレーゾーンに踏み込んだ辺りです。次の走者である渡邊ガバナー・エレクトがPETSや地区協議会で加速をつけて走るのを追いかけて、年度末に確実にバトンを渡すのが私の下期の役目と任じています。

先月号では箱根駅伝に例えました。今月号でリレーでは、さぞかし陸上好きのように思われるかもしれませんが、決してそういうわけではございません。私の会社は知事公館の裏手にあるので、周辺を走れば気持ちよからうとジョギングシューズを買ったものの、絵に描いたような三日坊主。それでは屋内だということで、踏み台昇降の運動器具を通信販売で取り寄せてみましたが、これも続かず。気負うと長続きしないものでしょうか。現在はヒマをみつけてジムのプールで歩いていて、これが近年ではもっとも長く続いています。大学時分は、航空部でグライダーに乗っていました。空を浮かぶだけというイメージとは異なりこの競技、体育会系です。結構な体力を必要とします。半世紀も前の体力はあてにできませんが、上期の慌しさをどうにか乗り越えられたのも、もしかしたらその当時の余力のおかげかもしれません。

上期から下期への移行時、多くのクラブで危惧されるのが退会者の件ではないでしょうか。年度末同様、退会しようという会員さんにとっては、年末もひとつのよい区切りになりえます。斯く言う私は、年度末に退会した経験があります。入会してもうすぐ20年経とうかという頃でした。その年度は石垣ガバナーを支える地区幹事（現在の代表幹事）を仰せ付かり、社屋の一部をガバナー事務所に提供するなど張り切ったものです。が、燃え尽き症候群とでも申しましょうか、とにかく一旦ロータリーから離れたくなりました。

私の前任の地区幹事には任期半ばで亡くなった方もいれば、後任にはやはり任期後に退会した方もいます。代表幹事は、ガバナー以上のプレッシャーを背負っていると言えましょう。私の相方にも相当な御苦勞をおかけしているとは思いますが、あと半年お付き合いの程を願います。

退会する方々の理由は様々です。単に面白くないからとのわかりやすいものから、やめたくないけど病気や仕事が忙しくてという残念なものまで。後者を理由に去る方には是非、落ち着いたらまた戻って来ていただきたいものです。そのためには近い会員さんが目を光らせて、そろそろいい塩梅というタイミングで声をかけることも大切です。私が札幌西ロータリー・クラブに復帰したのも、3年経って「そろそろ戻ったら？」と、お誘いいただいたおかげです。そんな出戻りロータリアンの私が、ガバナーです。「そろそろ戻ったら？」が無ければ当然、ガバナーにはなれなかったし、ガバナーになったからこそ出遭えたロータリアンも地区内外に大勢います。会社の朝礼さえ億劫なほど口下手なのに、毎日各クラブでスピーチすることになるうとは。70代になって尚、ひとの人生はわからないものだと痛感しております。

年明け早々、退会の話で恐縮です。やめたくないクラブ、やめてもいつかは戻りたいクラブを目指して、2009年もロータリーを楽しみましょう。

ロータリー理解推進月間（ロータリーの広報を考える）

パスト・ガバナー 塚原 房樹
(札幌東RC)

RIでは毎年1月をロータリー理解推進月間に指定しています。これはロータリアンには「ロータリー運動の本質とは何か」を理解してもらい、一般の人には「ロータリーは何をやっている団体か」を知ってもらう月間です。したがってロータリアンとロータリアン以外の人では理解してもらう内容の次元が違います。しかし最近、ロータリー理解推進月間はロータリアンへのアプローチは見られなくなり、一般の方に「私たちがどれだけ良いことをしたか、皆さんのお役に立っているか」という事実を知ってもらう」というイメージアップを図るための宣伝・広報の月間になってしまいました。

ロータリアンには「ロータリー運動の本質とは何か」を理解してもらうとよいでしたが、では本来『ロータリー』理解推進月間とは、一体全体『ロータリー』の何を理解し、何を推進するのでしょうか？そのためには最初にロータリーという言葉の峻別しておく必要があります。ロータリーという言葉は、①ロータリアン、②ロータリークラブ、③国際ロータリー、そして以上3つを包含した④ロータリーの世界/Rotary Worldという意味で使われています。我々は日常、これら4つを漠然と『ロータリー』という一語で使い分けています。ではロータリー理解推進月間はこれら4つの内のどれを理解するのでしょうか？「ロータリアン」についての理解を深めるのでしょうか？「ロータリークラブ」、「国際ロータリー」の理解を推進するのでしょうか？否、この場合のロータリーは『ロータリー哲学』を意味します。ロータリー理解推進月間に理解しなければならないのは『ロータリー哲学』なのです。その証拠はどこにあるかというと手続要覧（2007年p84）の社会奉仕の中に、1923年、セントルイスの国際大会で採択された決議23—34号があります。この決議は先人の知恵の結晶で、『ロータリー』とは何か、ロータリーとはいかにあるべきかを記したロータリー思想の殿堂であります。その第1項に“Rotary is a philosophy of life”「ロータリーとは人生の哲学のことを言う」とあります。したがってロータリー理解推進月間とは、ロータリー哲学を理解することなのです。特に日本、韓国、台湾の東洋哲学の素養のあるロータリアンはこの言葉に心酔しています。そのため決議23—34号という味気のない呼称ではなく、「セントルイス宣言」の愛称で呼んでいます。少し長くなりますが、その項目を転載します。

《ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕——「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである》

これを一言で言うならば「ロータリーとは利己と利他との調和の哲学である」といえます。人は迷った時、導いてくれるガイドラインを必要とします。心の中で儲けたい心（利己）と他人に尽くしたい心（利他）とが綱引きをした時には明確なガイドラインが必要です。そのガイドラインの基準となるのが、「超我の奉仕」と「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という2つのロータリーモットーなのです。この2つのモットーはロータリーの主概念なのです。つまりロータリー理解推進月間にロータリアンが学ばなければならないことは、利己と利他との調和の哲学なのです。

しかし近年（約10年前より）、ロータリーは大きく変身しました。原因は何でしょうか。会員の減少です。冒頭に記したようにロータリー理解推進月間はロータリアン以外の一般の人たちにロータリーの善行を強調する月間となりました。ロータリーはもともとライオンズクラブと奉仕観が違い、一般の人への広報は難しい団体です。ライオンズの奉仕は団体で金銭奉仕をします。例会のたびにドネーション（寄付）を募りそのお金で町に救急車を寄贈したり、公園に時計塔を建てたり、ベンチを贈ったりして、街の人々に分かりやすい目に見える奉仕をします。それに比べてロータリーの奉仕の原点は「利己と利他との調和」の哲学を育むことです。そのために例会の親睦を通じて個々の職業人の質を高めるのが目的となります。つまりロータリーの奉仕は個人奉仕、精神奉仕で目に見えません。

このことはロータリアン自身でも明快に理解しがたく、まして一般の人々にはなかなか理解してもらえません。このロータリーの見えない奉仕に対して国際協議会では「新会員を募るにしても、協力団体を求めるにしても、すべてがほかの団体としてのぎを削らなければならなくなった今日、広い意味での広報が私たちの将来のカギであるといえるでしょう」と強調しました。そこでロータリーも「一般の人々の目に見える好ましい公共イメージを広報することによってロータリーに新会員を惹きつける」「メディアを惹きつけるようクラブのプロジェクトや活動を改善する」「ロータリーと報道機関との関係改善」などが強調されるようになりました。今やロータリーもライオンズも会員獲得のためになりふり構わぬ生き残りをかけたサバイバルの時代となりました。ここで過去にRI理事会の採択した広報に関する方針の主なものをロータリー章典より年代順に追ってみましょう。

・1923年の決議34号（セントルイス宣言）

「ロータリークラブが奉仕の実践活動を選択する場合、広報宣伝を主要目的としてはならないけれども、ロータリーの影響力を強める手段として、優れたクラブの事業計画が見事に成功した場合、妥当な広報宣伝を行わなければならない」簡単にいえば、PRはするな。ただし適切な広報媒体があればPRしてもよい。

・1971—72年の理事会方針

「新会員をロータリーに惹きつけ、現会員を引き留めておくのに、広報が重要である」

・1972—73年の理事会方針

「広報をより効果的にするには、決議23—34に従って、各ロータリークラブが奉仕活動をするのが一番望ましい姿なのである」

・1977—78年の理事会方針

「ロータリーと報道機関との関係改善のために、適切な処置を講ずるようにする」

ざっとこんな具合で、決議23—34の広報宣伝を主要目的としない基本姿勢を守ろうとする声明から、積極的に広報に焦点を合わせた活動をすべきであるという意見まで、理事会方針そのものが大きく揺れ動いているのが分かります。

広報宣伝は効果がなければ意味がありません。効果の上がらなかった宣伝とは自分の主張だけで、実際の世の中の動きが黙殺したものであり、成功した宣伝とは実際の世の中の動きに追随したものであるといえます。広報宣伝は一般の人が考えてもいないことを、どんなに宣伝技術を凝らしてみたところで人々に理解させる力はないのです。わざわざ、ロータリアンが自分たちの功績を周囲に宣伝するのではなく、あらゆる場面にロータリアンとしての矜持を持って登場すれば、それが広報になるのです。広報宣伝は、ロータリーの思想普及の精神が表裏一体となっているのでなければ、無意味なことであると思います。

第37回ロータリー研究会報告

パスト・ガバナー 丸山 淳士
(札幌真駒内RC)

2008年11月21日から22日の2日間、今年度のロータリー研究会が東京で開催された。召集者は今年度のRI理事小沢一彦氏（横須賀RC）である。

現ガバナー、元ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニーに加え、今年度はガバナー補佐も参加し、文字通り日本におけるロータリー指導者の研究会となった。

19日にはロータリー財団セミナーが開催され、当地区から岩城財団委員長、ガバナーが参加した。20日夜、RI会長歓迎晩餐会があり、小沢RI理事が横須賀RCなので、会員若手（50歳以上は入れないそうである）によるオールディーズの演奏が披露された。また、翌日の希望晩餐会ではこれも横須賀の米海軍第7艦隊軍楽隊による演奏会が披露された。翌日の研究会本会議ではこれも小沢RI理事が後援会長を務めている縁で、小泉元内閣総理大臣が厳重なボディガードの保護の元「日本の進路」という題で講演された。ピチャイ・ラタクル元RI会長がロータリー財団管理委員長代理でお元気に参加され、すばらしい講演もされた。最終日には環境問題や会員増強についての熱い討論も行われ3日間の実のある研究会となった。



第37回ロータリー研究会詳報

直前パストガバナー 酒井 正人
(函館五稜郭RC)

11月19日に開催されたロータリー財団地域セミナーに引き続き、20日にGETS、ガバナー会、RI会長・R財団管理委員長代理（ピチャイ・ラタクル元RI会長）歓迎晩餐会があり、21日、22日の2日間は小沢一彦RI理事（横須賀RC）の招集で第37回ロータリー研究会が東京・台場で開催されました。第2510地区からは矢橋温郎ガバナーご夫妻、渡邊恭久ガバナーエレクトご夫妻、佐々木正丞ガバナーノミニーをはじめとして伊藤義郎元RI理事、富原 薫PDG、石垣博美PDG、伊藤長英PDG、森本正夫PDG、岩城秀晴PDG、佐藤秀雄PDG、塚原房樹PDG、丸山淳士PDGと酒井正人IPDGと多くのパストガバナーとスパウスが出席をしました。

ロータリー研究会は例年この時期にガバナー、パストガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニーを対象として、RI会長やRI役員、R財団管理委員長等が出席して開催されます。この度は各地区のガバナー補佐にも案内が出され、当地区からの参加はありませんでしたが、各地から35名の学ぶ意欲のある方々が特別参加をしました。

プログラムは前年度同様、国際ロータリーの強調事項すべてのセッションに参加をして欲しいとの計らいで

分科会方式とはせず、全員参加型で行われました。本会議の4つのセッションは「第1＝ロータリーの長期計画とロータリー財団の未来計画」「第2＝ポリオ撲滅プログラム」「第3＝水・保健と飢餓追放・識字率向上～子供の死亡率低下のために～」 「第4＝会員増強」があり熱心な取り組みの発表や意見が述べられました。

特別講演としては講師に元内閣総理大臣小泉純一郎氏による「日本の進路」ともう1題は(財)地球・人間環境フォーラム会長／元環境庁事務次官／前神奈川県知事岡崎 洋氏による「環境問題等について」と題してユーモアに富み興味深い話を聞くことが出来ましたのでその概要を記載します。

2008年11月21日 第1日目

■ 小沢RI理事挨拶 理事会報告

第1セッションでは決議23-34が中心になる。決議23-34の経過については私と渡辺直前RI理事が直接かわっているのの後ほど説明したい。

金融危機の財団への影響については11月事務総長から、キャッシュフローが充分あるので当面は心配がないとの報告があった。黒田RI理事エレクトから財政について説明する。

会員増強に関しては来年度から日本は3ゾーンを確保することができた。3ゾーンには10万人が必要なのだが現状97,000人であるので、10万人の回復を早急に実現することを念願にしているので、協力をお願いしたい。

■ 基調講演 RI会長 李 東建

今年度は「夢をかたちに」をテーマに世界の子供たちに焦点を当て、子供たちの健康を増進し死亡率を減少させることである。子供たちの為にロータリアン全体が力を合わせて実行することが大事である。子供たちに希望を与え、新世代の成長を促すのです。

- 1) 地域社会にきれいな水を与える「夢をかたちに」します。公衆トイレを建てるにしても、同時に浄水プロジェクトを実施します。子供たちに良い環境を与え保健のチャンスを与えます。
- 2) 教育を子供たちに与え「夢をかたちに」することは、貧困から抜け出すことになるからです。
- 3) ゲイツ財団のチャレンジで一億ドルを集めることによってポリオ撲滅の「夢をかたちに」します。
- 4) 会員増強が大切です。新しい会員が未来のロータリーの「夢をかたちに」することができるからです。似通った人たちを入会させる傾向がありますが、同世代、似通った職業分類だけで勧誘することでは限界があり、力強いクラブにはならないと思う。ロータリーファミリーを考えると若い人たちの入会が急務です。



これからの若い世代の人たちがクラブ会長、ガバナーになっていくことを祈念している。多様性のあるロータリークラブになることを熱望している。多様性とは、年齢、性別、職業、技能が違うメンバーの集まりである。

■ 挨拶 TRF管理委員長代理 ビチャイ・ラタクル(タイ・トンブリ)

財団管理委員長であるジョナサン・マジアベ元RI会長は病気で休養をとることを余儀なくされた。

古い言葉があります。「水を一口飲んだら、その源を思い出さなければいけない」と。これは50年以上前にロータリーに入会した時以来の私の哲学です。ですから、この研究会に集まって、ともに一口の水を飲んだ以上、私たちの行動の源、特に多彩な方法で奉仕する機会を与えてくれるロータリー財団を忘れてはいけません。

「世界で良いことをする」という財団の使命は決して変わっていません。しかし、世界で良いことをするの

は簡単なことではありません。たくさんの努力と勇気と犠牲とももちろん信念が必要となるのです。

私たちの第一の目標は、ポリオ撲滅です。ロータリーの最も重要な活動となり、非政府団体が行う活動としては歴史に類をみない大規模なものです。

私たちの第二の目標は、年次プログラム基金と恒久基金に対する継続的サポートです。財団プログラム運営のためのいわば燃料を供給します。「毎年あなたも100ドルを」を十分にサポートするのを拒否することは、生き物から酸素を奪い取るようなものです。

第三の目標は、それは「手を貸そう」という運動で、ロータリー世界平和フェローシップを恒久的プログラムにし、ポリオ撲滅の最終段階をサポートするものです。

四番目の目標は国際ロータリーと協調してロータリーの公共的イメージをさらに高めることです。

第五番目の目標は、「財団の未来の夢計画」の実行に参加していくことです。例えば、マッチンググラント・プログラムはその人気ゆえに、複雑でしばしば効率の悪いプロセスを伴う結果となりました。シンプルな方法ともっと簡単に理解できて実行しやすい、より効率的な仕組みを求めてきたのです。未来の夢計画は、それらの要望に財団が応えたものです。



■ RI5カ年財政計画 RI理事エレクト 黒田正宏（八戸東）

国際ロータリー細則では、ロータリー研究会でRIの財務見通し5カ年計画を発表することが義務づけられています。

- ・ 2007—08年度の監査前数字であり、確定した数字ではない。またこれは国際ロータリーの財政であり、財団とは別であることを確認したい。
- ・ 前提条件は人頭分担金48ドルから2010、2011年に1ドル毎増額。会員数は安定とし、一般費3%、交通費5%、長期収益率は7%を前提にしている。
- ・ 収入は2007から2013の7年間（人頭分担金、国際大会、規定審議会、その他、投資収益で構成される）
- ・ 経費面では事務局経費は毎年3%増、交通費は5%増を前提にしているが、2011年から赤字転落を予想している。
- ・ エド・フタ事務総長から、今回の金融危機に対して職員に非常事態宣言をして事務運営の見直しをしている。運用実績はマイナス9.4%。

■ 2009年国際大会委員長 田中作次（八潮）

バーミンガム国際大会委員の渡辺直前RI理事、藤川委員と共に、国際大会への参加をお願いしている。100回目の国際大会という特別の大会に皆様是非ご参加いただきたい。

■ ロータリー米山記念奨学会報告 理事長 板橋敏雄（足利東）

14億5千万円の寄付をいただき、800人の奨学生を採用した。600の世話クラブでカウンセラーが支援している。

本年度は「ホームカミング制度」を創設し、これは帰国した学友を日本に招き報告をいただく制度である。9地区の賛同を得て地区大会でスピーチをして参加メンバーに大きな感動を与えている。

学友からの貢献が多くある。北京の学友はこれまで100万円の寄付、中国での四川大地震の被災地に入る米山学友や募金活動、宮城地震でも米山学友から義捐金が送られている。

ボストンの中国人学友から1000ドル寄付があった。

■ 講演「日本の進路」 元内閣総理大臣 小泉純一郎氏 講演内容省略

■ 第1セッション「ロータリーの長期計画とロータリー財団の未来計画」

パート1：ロータリーの長期計画

南園義一PDG（防府RC）がモデレーターを務め海沼美智子（東京恵比寿RC）青少年奉仕支援グループアジア担当コーディネーターから、長期計画とRI委員会活動として、青少年活動を中心にインターアクト、ローターアクト、RYLA、青少年交換委員会合同委員会で青少年プログラムの相乗効果をあげることができるとの発言があった。成川守彦PDGからは長期計画と地区とクラブ活動との関係が述べられた。

パート2：財団の未来の夢計画

財団の未来の夢計画の理想と将来に関する総論をTRF（財団監理委員）田中作次氏から説明があり、未来の夢計画の具体的な活動の展望をRRFC北 清治氏から説明があった。

パート3：討論

時間が無く、発言も限られて特記すべきことは無かった。

パート4：RIの現状と将来への見通し

RI研修リーダー安平和彦PDGから規定審議会、特に日本の現状が述べられ、次期規定審議会には話題になっている決議23-34に関してロータリーの章典及び手続要覧に載せるよう要求する決議案が数件出される。

渡辺RI前理事からはゾーン再編についての説明があり、世界のゾーンがそれぞれ等しい会員数にする動きがあり、日本は現在の4ゾーンから3ゾーンになることが決定している。しかし、3ゾーンでも10万人の会員数がなければならないが、現在それを切っているのでは何とか10万人にしたい。

■ 第2セッション ポリオ撲滅プログラム

橋本 譲PDGをモデレーターとして進行し、RI副会長モンティ- J. オーデナート氏からロータリーとポリオとの関係について述べられた。RIはポリオ撲滅の約束を守るために行動しなければならない、新しい手段と方策を実施しなければならない。2008年にはインド、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの一部に発症は限られる。Type1、Type3にかぎられ、特にナイジェリアのType3に注目されている。インドではtype1は撲滅された。指導者の参加と取り組みが必要であり、一般市民を対象にした資金をクラブに募金することを奨励している。ビル・ゲイツ財団から1億ドルのチャレンジ資金を受け取っており、それには1クラブ1000ドルを拠出しなければならない。

岩井 敏PDGからは「ポリオに命をかけた2人の日本人ロータリアン」と題して、東京麹町RCに在籍していた山田ミネ氏と峰 英二氏の話をして会場からも感動の声が聞こえていた。

日本国立感染症研究所所長宮村達男氏からは「ポリオ根絶計画の人類史的意義」と題しての専門的な話がされ、1960年夕張で大流行したことや、当時、四肢の麻痺が主流であるが呼吸筋の麻痺が多くあり死亡例が多かったため鉄の肺を使用する例が多かった。また、急性弛緩性麻痺には=ポリオ、コクサッキーウイルス、エンテロウイルス、ギランバレー症候群、横断性脊髄炎、外傷性神経炎等もある。

2008年11月22日 第2日目

■ 2日日本会議 第3セッション「水・保健と飢餓追放・識字率向上」

坂本俊雄PDGをモデレーターとして「水・保健と飢餓追放・識字率向上」について話された。特に子供の死亡率の低下のためには李東建RI会長の強調事項でもある、5歳以下の死亡率を低下させるには水・保健と飢餓追放・識字率向上が欠かされない。2005年は960万人、20%を超える国が12カ国あり、ほとんどがアフリ

力である。シオラオネ共和国が最大で、死亡率は出産によるもの36%、風邪症候群19%、下痢17%、マラリア8%、エイズ3%であった。

ネパールの女性のための識字教育支援、カレン族の小学校へ飲料水浄化装置支援プログラム、トルコの配水管架設、チューク州の飲料水確保等の事例報告もされた。

■ 講演「環境問題等について」前神奈川県知事 岡崎 洋氏 講演内容省略

■ 第4セッション「会員増強」

このセッションでは服部芳樹RRIMCのコーディネーターでクラブが取り組んでいる事例が報告された。

■ オープン・フォーラム

23-34についての質問に対するRI会長の回答

この決議の歴史は1923年セントルイスにある。それは奉仕活動を包括的に表現したものであった。しかし、1927年に四大奉仕部門が明確になった。この最初の決議を重んじることは当然である。2007年11月にロータリーのあるシニアリーダーが決議23-34とポリオへの活動とでは矛盾があるのではないかとの書簡を提出した。理事会はそれを受けて、ロータリー章典から削除する方向となった。しかし、日本の2人のRI理事のご努力により、2008年6月の理事会で手続要覧に掲載されることと、章典には「手続要覧を参照」というコメントを残すことになった。

各クラブが独自にクラブの細則に決議23-34を取り入れることは、RIの細則からも自由であるので心配はない。

日本のシニアリーダーの中でも決議23-34が排除されたと誤解していることは残念である。理事会は日本のロータリアンの心を察し、決議を削除することはもったいないと思っている。引き続き手続要覧に掲載されることを再度確認したい。

(注) 写真は丸山淳士PDGの提供によるものです。

第37回 ロータリー研究会に参加して

ガバナーエレクト **渡邊 恭久**
(滝川IRC)

11月19日(水)からの第1ゾーン～第4ゾーン Aロータリー財団地域セミナーを皮切りに20日(木)はGETS(第2回ガバナーエレクト研修セミナー)、ガバナー会、夜には李東建RI会長ご夫妻、ビチャイ・ラタクルR財団管理委員長代理歓迎晩餐会、21日(金)から22日(土)までロータリー研究会、希望晩餐会が4日間にわたって開催された。このシリーズは、主に日本の地区である4つのゾーンから代表として選挙された小沢一彦RI理事(横須賀RC)が、ガバナー、パストガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、そして今年はガバナー補佐を東京台場ホテルパシフィックLE DAIBAに招集した年一回、600名参加の大きな公式行事で、われわれの第2510地区からは元RI理事、パストガバナー、エレクト、ノミニ、更にご夫人ら16名が参加した。

以下、内容の要点を時系列で報告する。

19日のロータリー財団地域セミナーではマジリアベ財団管理委員長が急病で出席できなくなったことで、日

本で人気のあるビチャイ・ラタクル財団管理委員が代行を務め、その挨拶の中で「現実の世界は様々な変化が起こりつつあることは共有の認識であり、プログラムや手続きは時代に合わせて変化していくものだが、変えていけないものはロータリーの哲学であり使命と言えよう。ロータリーの哲学・理念を維持していくことを明確にし、その方向性を失ってはいけない」と話されたのは印象的であった。

2008年6月のRI理事会で承認された財団の「未来の夢計画」は、現在の複雑で効率の悪い財団の仕組みを新地区補助金とグローバル補助金の2本立てのシンプルに整理し判りやすく、手続きを簡素にして効果を計る事がねらいであると説明され、これから3年間を試験段階として推進し2013年にはこの計画の導入を完了させるとの事である。



20日のGETSでは、本年9月の第1回GETSは34地区全てにエレクトが決まっていなく歯抜けだったが、この第2回GETSは34名全員が揃い、配偶者共々1月に開催されるサンディエゴの国際協議会に向けての最後の国内研修が行われた。

20日夜のRI会長ご夫妻、R財団管理委員長代理歓迎晩餐会は、横須賀ロータリークラブ・ファイネスト・バンドのオールディーズからプロ並みで軽快な演奏から始まったフランス料理の盛大なパーティであった。



21日のロータリー研究会で、小沢一彦RI理事から李東建RI会長ご夫妻、モンテイ・オーデナートRI副会長、ポール A ネットエルRI理事執行委員会委員長、謝三連RI理事等海外からの参加者を紹介し、金融危機の影響を受けても財団はキャッシュフローも余裕があり全く心配はないが、3ゾーンを維持するには10万以上の会員が必要で、現在は97,000人であることから10万人の回復を早急にしたいと挨拶をされた。

基調講演の李東建RI会長は、ロータリーの力で世界の子供達の死亡率を減らしたい。子供達の将来に希望とチャンスを与えるために水・保健・飢餓・識字率の向上などの分野に目を向け「夢をかたちに」を実践して欲しいと力説された。

講演の小泉純一郎元総理はこれからの我が国のテーマは、環境保護と経済発展、食生活と食の安全であり、昭和48年の石油パニックでの教訓と学習効果によって、2年前原油が20ドルで今年は140ドルにも高騰したにも関わらず大きな混乱が起きなかった。更に石油依存度が当時の70%から今は40%に落ちたせいでもあるなど軽妙な語り口で聴衆を魅了した。

22日の講演者は、岡崎洋元環境庁事務次官・前神奈川県知事で、かつては水俣病など公害問題に見られるように対象が明確であった問題から、地球規模で考えなければならない環境問題に発展している。とりわけ温暖化問題は基本的には石油文明の限界であり、新たに太陽エネルギー、バイオ、水素などに頼る技術文明を人類は創り出さなければならないと結論づけていた。

22日のオープンフォーラムでは小沢RI理事が司会をし、活発な意見が交換された。その中で23-34については、李RI会長が質問に答え「2007年11月にあるシニアリーダーから決議23-34はポリオ活動と矛盾すると指摘があり、理事会はロータリー章典から23-34を削除する方向となったが、日本の2人のRI理事の努力で2008年6月の理事会で手続要覧に掲載されることになり、章典では手続要覧参照と記載することを決定した」と説明があった。また、その文言は「歴史的な文献という表現」は過去のことにならないかには「生きた文献と」と理解していると答えられた。閉会点鐘の16時を遥かに超えた熱いフォーラムであった。

来年度は新しくRI理事に就任される黒田正宏エレクトが主宰して、今年と同じく台場で11月17日から4日間開催される事を確認シタ方解散した。

ロータリー財団地域セミナーに学んで

地区ロータリー財団委員会

委員長 **岩城 秀晴**

(札幌南RC・PG)

財団地域セミナーに11月19日（水）参加し、191名の方々と机に向かっているいろいろと指導者のリーダーのもとに学んで参りました。今年は7月11日にもハンドブックを貰ったのですが、その復習になるのかと考えておりました。ところが、新冊子を読み、その迅速さにはいささか驚いた次第です。

さて、財団も間もなく100周年を迎えようとしているのですが、それにつきまして大きな改革もどきに改正しようとしているようです。

それでは、説明者の順によって説明致しますと、

1. 寄付金の使い道

未来の夢計画と新補助金の説明が田中作次管理委員よりされましたがRI理事会は2008年6月の会合で、ロータリー財団の夢計画を承認しました。この計画の実施は2010年7月1日から始まりますが、3年間の試験期間中は新補助金プログラムに参加します。参加しない地区でも既存のプログラムをそのまま利用し、2013—14年度から新補助金に移行します。

この先行地区は、2010年7月1日からマッチング・グラントを利用できません。補助金は大きく分けて2種類となります。

- (1) ロータリー財団新地区補助金 (Rotary Foundation District Grants)
- (2) ロータリー財団グローバル補助金 (Rotary Foundation Global Grants)

新地区補助金とは、

地区補助金と同じように、地区に一括して補助金を授与します。

地元地域社会でも海外でも使えます。ロータリーのない国でも事業を実施できます。

グローバル補助金

次の6種類の重点分野を実施します。

- (1) 平和と紛争予防／紛争解決
- (2) 疾病予防と治療
- (3) 母子の保健
- (4) 水と衛生設備
- (5) 基礎教育と識字率向上
- (6) 経済開発と地域開発

この重点分野については当初9年間、この分野に専念することになっています。

これをさらに2種類に分けられます。

- (1) パッケージ・グラント

地区、クラブだけではなく協力組織も加わってプロジェクトが実施される。

- (2) クラブ&地区計画補助金

財団補助金と地区&クラブの拠出金の比率は今までどおりDDFなら1対1、現金なら1対0.5です。

2. これにともなって次のプログラムが廃止される。

マルチイヤー国際親善奨学金

文化研修奨学金

大学教員のためのロータリー補助金

3-H補助金

ボランティア奉仕活動補助金

災害復興補助金

3. この結果、

- (1) 新しい体制作り意見に述べたり、参加できる。
- (2) 財団からより専門的な支援や業務を受けることができる。
- (3) 地区の裁量で使える資金が増える。

以上が、新補助金の説明でありました。

4. 寄付については、

日本が独自の公益認定財団法人を目指していますが、本年12月1日より公益法人制度の改正により、目下その設立に向けて進めているが、この認可を明年6月中を目指しているとの報告があったに止まった。

毎年あなたも100ドルとロータリーカードの利用を実行してほしいとの要望がありました。これを使用することにより財団への寄付が高まることになります。

なお、取扱い業者である“オリコ”も当地区に来て、その要請がなされ矢橋ガバナーと財団委員長との合意をした。

最後になりますが、ポリオ・プラスとチャレンジ寄付のお願いをされました。このように、財団も地域の社会奉仕のニーズに融合した財団になるように改善されつつあると思います。

会員が奉仕する手段としての財団が一人歩きをしているような感があるのを逐次改善しようとしている姿勢が垣間見られるように思います。

1917年のアーチ・クランフ氏の提案した慈善、教育その他社会奉仕の分野でより良きことをするために基金に賛同して協力しましょう。有難うございました。

2009-2010年度GSEプログラム 派遣団員募集締切り迫る！

スウェーデンにありますRⅠ第2360地区と当地区の間でのGSEプログラム（福祉・介護を中心とした特別重点GSE）に参加する派遣団員の募集を行っています。

1. 募集人数 4名（簡単な日常英会話の出来る方が望ましい）
2. 募集期間 2008年11月15日～2009年1月15日（木）必着
3. 選考日 2009年2月1日（日）面接と英会話の簡単な口頭試問もあります
4. 選考結果発表 2009年2月15日
5. 派遣期間 2010年4月24日～2010年5月27日
6. 派遣先 スウェーデンの南西部イエーテボリを中心とした地域
7. 募集資格 社会福祉の中でも身体障害者および高齢者の支援業務に従事する者で、実務経験が最低2年あり、応募時に25歳～40歳の方
8. 派遣訓練 語学を中心とした研修を約1年間（月1回）受講していただきます。
9. 応募方法 各ロータリークラブを通してガバナー事務所へ
10. 連絡先 RⅠ第2510地区ガバナー事務所 GSE委員会
札幌市中央区大通西11丁目4大通藤井ビル7F
電話（011）207-2510 Fax（011）207-2512
e-mail: rid2510@nifty.com
http://www.ri2510.gr.jp/gse/



洞爺丸海難慰霊碑

国際ロータリー第2510地区

パストガバナー 塚原 房樹

(札幌東RC)

《七重浜と七飯RC》

だいぶ前になりますが、ガバナー補佐の上野一義さん（七飯RC）から手紙をいただきました。

手紙には以前、函館のIMの時の私のスピーチのコピーと他に新聞の切り抜きが同封されていました。私のスピーチは、「七重浜の青函連絡船『洞爺丸』の慰霊碑を訪ねて遭難者のご冥福をお祈りしたいと長い間願っていたこと。特に船が沈没する際に乗っていた外国人牧師が、自分の救命具を若い学生に与え自分は亡くなったという崇高な献身的行為を聞いていたので、函館に行くたびにその外人牧師の霊に感謝の祈りをささげたいという気持ちが強くあった。幸い上磯RCさんの公式訪問の際、藪下ガバナー補佐に案内されて念願がかない慰霊碑にお参りをすることができたが、只大きな勘違いをしていた。七重浜に慰霊碑があるので、てっきり七飯RCさんが長年清掃奉仕をされているとばかり勝手に思い込んでいたが、七飯RCさんは亀田の七飯町で同じ『ななえ』でも場所と字が違う。慰霊碑の清掃をクラブの事業として長く続けておられるのは、函館北RCさんだということを知った」という内容でした。

私はわが身を捨てて「超我の奉仕」を实践された外国人牧師については詳しいことは何一つ知りませんでした。同封された新聞の切り抜きにより牧師と彼の子息の詳細を知ることができました。新聞の切り抜きは「核大国の祖国に何を訴えますか」という2008年4月の道新の記事でした。そこには広島平和文化センター理事長にスティーブン・リーパー氏が就任したとあり、「原爆を落としたアメリカの人が?」。当初は被爆者らに当惑を広げる“サプライズ人事”と伝えています。その彼の父が1954年、台風で函館沖に沈んだ青函連絡船『洞爺丸』遭難の際、船に残って女性や子どもの救助に努め、最後は救命胴衣のヒモの切れた少女に自分の救命胴衣を譲って自分は命を落とした外国人牧師ディーン・リーパーさんその人だったのです。母国の戦争文化に厳しい目を向けるスティーブンさんはこの時6歳でした。彼は「連絡船は岸壁からあまり離れていなかったし、父は泳ぎが得意だったので、自分が死ぬとは思わなかったはず。ただ自分だけ助かるうと思えば真っ先に海に飛び込めたのに、父は船が転覆するまで女性や子供たちの救助に当たっていたそうです。自己を犠牲にしても、他の人のために尽くすことが大事だという教えは私たち家族の中に残っております。アメリカ人が平和センターの理事長になることは自分にも迷いがありましたが、祖国の過ちを正す行動は間違いではありません」

『洞爺丸』の海難事故からすでに半世紀を経過して今や人々の記憶から遠のいて風化しようとしています。50数年前の外人牧師の崇高な行動が今ご子息に継がれています。正しい史実を知らせていただいた上野さんありがとうございました。長年の胸のつかえが下りました。

《ロータリーは奉仕団体か》

「ロータリーって何ですか?」「はい、奉仕団体です」この応答はかなり誤解を生む危険性をはらんでいます。毎年我々が会費として出しているお金は、ほとんどク

ラブの維持運営費に使われていて奉仕に支出されるお金はニコニコBOXが頼りで、決して額は多くありません。それでいて奉仕、奉仕と声高に叫ぶと世間から誤解されます。「超我の奉仕」というモットーはロータリーの主概念であります。しかしロータリアンは皆、リーパー父子の実践した崇高な「超我の奉仕」を実践できるでしょうか。ベルギー人の修道士ダミアンは、ハワイのモロカイ島で当時だれも顧みなかったハンセン病患者のケアに一生をささげ、自らも罹病して命を落としました。しかしロータリークラブは修道院でもなければ、ロータリアンは修道士でもありません。普通の善意で結ばれて集まった人たちで、決して特別の人達ではありません。「超我の奉仕」という言葉を使わなくても、出来ることならあまり悪いことはせず、良いことを心がけて生きてゆこうよという人たちの集まりであっていいと思います。その善意を育むためにロータリーの例会があり、フェローシップがあり、異業種の交流による切磋琢磨が大事なのです。自分の職業と異なる会員の知恵を毎回の例会で学び自分を高めていきます。ロータリー運動とは個人の善意を育む「人作り運動」なのです。企業の繁栄は経営者の人格の反映と言われています。ロータリアン個人、個人が高められた資質を持って自分の企業を繁栄させることが最大の社会貢献であり、最大の奉仕なのです。ロータリーはこのことを職業奉仕と呼んでいます。自己啓発こそロータリーの最大の魅力でした。社会を改良するには社会の基である個人の心を改良しなければならないとロータリーは信じて疑わないのです。奉仕の実践の前にまず善意の心を涵養することが必要です。ロータリーは奉仕団体ではなく、奉仕の心を育む人たちの集まりなのです。

《国際ロータリーの変身》

国際ロータリーは成人教育の場としての職業奉仕団体から、今や人道的国際ボランティア団体へと変身しました。社会の現象は一点にとどまらず、常に変化します。ロータリーも同じで奉仕プログラムは時代とともに変わります。私はロータリー財団がマクロな視点で世界の弱者を救済することに異議はありません。むしろロータリーの奉仕の課題としてふさわしいものと思っております。

確かにポール・ハリスは「本当に有効かつ実効性ありという合理的な見通しがあるならばどんな革新にも応ずる用意がある」と言っています。しかし「他の慈善事業団体などと功を争うな、ロータリーはロータリーの目的とする範囲のことをすればいい」と釘をさして、「人作りロータリー」「職業奉仕」の理念まで捨てて良いとは言っていない。つまり変えていいのはその時代に即した活動であって、ロータリーの本質を風化させるようなことがあってはならないのです。本来のロータリーの目的は人を作る運動であったはずで、それがロータリー運動の魅力でした。

《どんな言葉でも長い間使われていると手垢にまみれふやけてしまうものだ》

これは亀井勝一郎氏の言葉です。ロータリーの「奉仕」という言葉はその代表格といえます。

ロータリーの世界では右を向いても左を見ても奉仕、奉仕の掛け声ばかりで、何か大切なものが失われてしまいました。「奉仕」はもともと宗教上の言葉ですが、神への奉仕から「祈り」が失われたらどうなるのでしょうか。同じようにロータリーの奉仕から「祈り」の心が失われたら単なる慈善団体となります。人間の力には無論限界がありますが、「祈り」とは限界突破のための祈りであり、意思の力でありませぬ。その祈りは不純であってはなりません。金銭の多寡を競い、自己の名声を求めると奉仕は転落します。言い換えればそのとき奉仕は投機心が変わってしまいます。われわれは外国人牧師ディーン・リーパーさんのように自分を滅してまでの奉仕はできませんが、生涯学習の場、ロータリーの例会で絶えず自己の善意を高めていくことが最大の奉仕なのです。



I M を 終 え て

地区ガバナー補佐（第8グループ担当）

園 修
(浦河RC)

補佐を受託したのが昨年10月、12月8日には補佐予定者顔合わせ、今年に入り2月16日、17日はガバナー補佐研修セミナーと地区チーム研修セミナー、3月1日、2日は会長エレクト研修セミナー、4月6日地区協議会、6月1日地区会員増強セミナー、6月8日新旧ガバナー補佐顔合わせ、7月26日地区社会奉仕委員会と札幌、苫小牧へと出張し、その間グループ内の各クラブ訪問、新旧会長・幹事会と結構忙しい日々を過ごしてきました。

矢橋ガバナー年度に入り、ガバナー補佐研修の成果を発揮すべく各クラブ訪問やグループ内の共同事業を計画し、各会長に諮ったところ否決され最初の暗礁、これを模索しているうちにガバナー公式訪問、この訪問と同時にまだ大問題発生。次年度のガバナー補佐が決まらず奔走し最終的には次年度も浦河RCで受ける覚悟で各会長と話し合い、ようやく三石RCの山田博継会員が受託し安心。

10月29日は道営競馬門別開催日で静内RCより提案のあった地場産業を支援しようとのことで第8レースをRC第8グループ冠杯として併せて静内RCの移動例会を競馬場で行い、私も参加して優勝馬への表彰授与をしてきた。そして11月、補佐のメイン事業である第8グループIM（インターシティ・ミーティング）。詳細はクラブ補佐委員会が2ヶ月前から検討してきたので私はただただ精神的苦悩のみ。いよいよ11月16日IM当日、早朝目覚めて挨拶の練習、朝食を摂り9時40分会場へ行くと11時点鐘なのに補佐委員会が全員で既に準備終了しており、仲間の協力に感謝しプログラムを開いて気になるのが参加人数、その心配もなく85名の出席で無事、点鐘に辿り着いた。

クラブ補佐委員会司会のもとホストクラブ会長開会宣言、国歌・ロータリーソング斉唱、参加クラブ紹介と、いよいよガバナー補佐の歓迎挨拶。鼓動を感じつつ演題に上りつめ、私の挨拶に入ったが十分に練習してきたので自分ではスムーズにできたと思っている。

つづいて次年度ガバナー補佐の挨拶があり、さすがに御坊さん、堂々とした見事な挨拶でした。

次に記念講演に入り「パラサイト北海道・自立への道」という演題で不動産鑑定士、カウンセラー、土地区画整理士の堀川裕巳先生の話の内容は「北海道の人口は2000年～2030年にかけて100万人が減少し、高齢人口は54.6%増加する。これに伴い空地、廃屋の増加、維持管理のできない公共施設の増加、利便施設の減少、役所の統廃合、財政収入の減少と住民負担の増大になるので、事業者は人口問題を無視しては商売にならないこと。そこで北海道の自立は、市場はアジア、ロシアの富裕層をターゲットとし、道の食材、道にしかない物を徹底的に搜し、温暖化は北海道にとって農業も観光もプラスに作用し、食料自給率は200%に上げ、原材料輸出型から加工輸出型へ移行する」などのお話で全員感銘して拝聴していたので、このIMは成功したと実感した。

これで補佐の仕事は終わったわけではないが、あとは流れに任せ会員増強や各クラブの事業計画予定の推進をし、第8グループがロータリークラブの輪のごとく円満に楽しく活動できることを願うのみである。

ガバナー公式訪問

函館亀田ロータリークラブ

9月29日（月）

本日、矢橋ガバナー、上野ガバナー補佐と大金地区代表幹事が公式訪問されました。16時から出戸会長、遠藤会長エレクト、山田幹事とポリオ・プラスの件や、会員数の事を懇談され17時からクラブ協議会を行いました。各委員長よりクラブの活動計画を説明し貴重なアドバイスを戴きました。

例会では、ガバナーより新入会員と推薦会員にバッジの授与をして戴き非常に喜んでおりました。

その後、ロータリーバッジの効用やWCSの話を解りやすくして戴き、大変参考になりました。有難うございました。



函館東ロータリークラブ

9月30日（火）

午前10時より、矢橋ガバナー、光銭ガバナー補佐及び大金地区代表幹事と当クラブの会長、幹事、会長エレクト及び副幹事との会長・幹事懇談会を行い、クラブ予算や友好クラブ、ローターアクト等について楽しく意見交換ができました。

続いてのクラブ・アッセンブリーでは各委員会での活動報告、ガバナーとの意見交換、質疑も活発に行われました。その後の例会では、ガバナーより交換学生についてご教示戴き、とても勉強になりました。また、ローターアクト、GSEや財団についてもガバナーよりご説明があり、会員一同有意義な時間を過ごすことができました。最後に大金地区代表幹事より地区大会の登録の御礼を戴き、無事に公式訪問を終えることができました。



函館五稜郭ロータリークラブ

9月30日（火）

9月30日（火）、矢橋温郎ガバナーと大金武夫地区代表幹事、第11グループ光銭ガバナー補佐をお迎えして、午後4時30分より会長、幹事、会長エレクト、副幹事4名による懇談会が始まり、クラブの現況報告をしてCLP実施クラブとしてのクラブ運営について、又ニコニコボックスの使い方についてご意見を戴きました。

午後5時30分からクラブ協議会を開催、今年度の奉仕活動計画の中間発表や各委員長の報告を致しました。

その後、午後6時30分からの点鐘で夜間例会が開催され、ロータリーソングは「四つのテスト」を斉唱した。矢橋ガバナーから地区目標の講話、特にロータリー財団、米山記念奨学会のお話を戴き、最後に全員集合の記念写真撮影をして公式訪問が終了しました。



森ロータリークラブ

10月1日（水）

10月1日矢橋温郎ガバナー、第10グループ上野一義ガバナー補佐、大金武夫地区代表幹事をお迎えして、ガバナー公式訪問が行われました。

午前10時より会長・幹事懇談会が出町会長、向中野エレクト、桜田直前会長、石山幹事が出席して行われ、クラブ運営についての助言を戴きました。

引き続き午前11時より行われたクラブ協議会では、各委員長より今年度の活動計画の内容について説明し、ガバナーよりの確なアドバイスを戴きました。

正午より会員を交えての和やかなうちにも緊張感がある例会が行われ、今年度のRI会長方針「夢をかたちに」、矢橋温郎ガバナーが掲げる地区目標について具体的な説明をいただき、今年度のクラブ運営の目標達成に役立てていきたいと思います。



函館ロータリークラブ

10月2日（木）

10月2日（木）午前10時より、矢橋ガバナー始め、大金地区代表幹事、上野ガバナー補佐を迎えて、会長・幹事懇談会を開き、当クラブの会員の減少の現状と地域の問題点などについて話し合いました。

午前11時より、クラブ協議会で四大奉仕委員会より計画を発表して頂いた後、矢橋ガバナーより講評をいただき、環境保全委員会でのエゾヒキガエルの保護の状況、又、姉妹クラブ、ローターアクトの現状などが各委員長に聞かれ、発表された事についてもご意見をいただきました。

その後は、例会に出席を頂き、矢橋ガバナーより再度、クラブ協議会での問題点など30分間お話しをいただき、ロータリーへの熱い思いが伝わり、なごやかなうちに終了しました。



札幌南ロータリークラブ

10月6日（月）

10月6日（月）、矢橋温郎ガバナーと土谷 享第5グループ担当ガバナー補佐をお迎えして、午前10時より会長・幹事会、11時よりクラブ協議会を開催しました。

会長・幹事会ではざっくばらんな意見交換があり、クラブ協議会ではCLPによる組織再編や会員増強運動への取り組みなど当クラブの現況をご説明し、それに対する熱心な質疑などがありました。また当クラブの活動につき貴重なご意見も頂きました。

例会でのガバナーの卓話では、ご自身のロータリー経験という身近な話題から、RI会長方針、ポリオ・プラス、米山奨学会、地区の目標など広範囲にわかりやすくお話し頂き、とても有意義な公式訪問でありました。



当別ロータリークラブ

10月7日（火）

10月7日に矢橋ガバナーと吉野ガバナー補佐が公式訪問されました。はじめに当クラブの三役が歓迎の意を表した後、現況など意見交換をしました。その後、吉野ガバナー補佐司会の元に、クラブ協議会を開催し各委員会の活動など報告しガバナーのコメントを戴きました。クラブ協議会終了後、公式訪問例会を開催しました。例会開催時に、吉野ガバナー補佐から矢橋ガバナーの紹介と共に、前段クラブ協議会が行われたこと、10月26日の地区大会の参加と11月29日に行われる第3グループIMで会いましょうの言葉で始まり、矢橋ガバナーの講話を戴きました。



講話内容 1.財団について 2.米山について 3.ポリオプラスについて

以上の事について宜しくお祈りしますと、ご講話を戴きました。また、イギリス・バーミンガムで国際大会が開催されますが、4%の参加の要請があるので是非ご参加下さいと要請がございました。

最後に、子供たちの救済のために、医薬品やワクチンなどの物資が不足し幼い子供たちが命を落としているので、健康と飢餓救済、識字率向上に取り組む事をRI会長（夢をかたちに）が決定した事のお話もありました。矢橋ガバナー、吉野ガバナー補佐、大変ありがとうございました。

札幌モーニングロータリークラブ

10月8日（水）

去る10月8日（水）に公式訪問をいただきました。前日午後5時30分からの会長・幹事懇談会、クラブ協議会に引き続き、早朝7時30分からの例会で、矢橋温郎ガバナー、大島利一第4グループガバナー補佐には大変お疲れ様でした。



ガバナーからは、交換留学生・GSE・米山奨学生等や地区の現状をわかりやすくご説明いただきました。10月25・26日の地区大会の登録・参加要請を受け、当クラブは移動夜間例会とし、出来る限り多くの会員の参加を呼びかけておりました。

また、ロータリー財団への寄付につきましては、一人年間100ドルをクラブの目標に掲げ努力しております。地区目標達成のため、また、世界中で苦しむ子供たちのために、ガバナーのますますのご活躍を祈りつつ、心強いご指導に感謝申し上げます。

苫小牧東ロータリークラブ

10月9日（木）

10月9日（木）、グランドホテルニュー王子にて高井会長、長岡幹事、斉藤副幹事、小幡SAA副委員長と共に矢橋ガバナー、板谷ガバナー補佐をお迎え致しました。朝食をお取り戴いた後、午前10時に予定されておりました会長・幹事懇談会を行い、CLPを今年度より行い問題点を含め、今後各委員会の方向性のお話を戴き、特に職業奉仕論は難しく国際奉仕とは何か、私達クラブも今一度考えなければいけない問題をご指摘戴き感謝申し上げます。



懇談会が終わりクラブ協議会では、それぞれの委員会に対し貴重なご意見を賜りました。また、ガバナーより例会の卓話の中で、RIのテーマでの強調事項のお話を戴きました。水の汚染、飢餓の追放、識字率の向上について世界では毎年3万人の子供が亡くなり、薬があれば救える事。全てのクラブにRIのテーマをご理解戴きお願いしたいと簡潔に説明戴きました。財団の事にも触れられ大変参考になりました。現在、第2510地区の半分をご訪問されお疲れの事と存じますが、私共を含めたロータリアンの為、今後ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

地区WCS委員会報告

札幌大通公園ロータリークラブより、「モンゴル日本語教材寄贈事業」の報告が届きました。現地を訪問しての検証、交流も実施された旨の報告を頂戴しておりますので、原文のまま掲載させていただきます。この事業により、今後日本とモンゴルの交流がますます深まることをお祈り申し上げます。

地区WCS委員長 出村知佳子（札幌北RC）

モンゴル日本語教材寄贈事業2007—2008報告

札幌大通公園ロータリークラブ会長 大坂 忠

1. プロジェクト名 モンゴル国児童書等贈呈

2. 事業計画

モンゴル国の日本語を学ぶ子供たちに、日本の家庭に眠っている児童書・童話・子供百科事典などを贈る。

事業目的 モンゴルはアジアの中では極めて親切的な国であり、近年は学校で日本語を学ぶ子供達も増えてきています。その子供達に、日本の家庭に眠っている絵本・百科辞典等を送り、初期の日本語学習の参考にして頂くと共に、日本文化を理解して頂く。

対象年齢 第5学年から第8学年（日本の小学5年から中学2年）

贈答品目 絵本（小学校低学年が読むような絵がついたもの）、子供百科辞典、少年少女文学全集、音楽のカセットテープ、日本語検定3・4級程度の教材、童謡などの音楽テープ（日本語を音で覚えるもの）、いろはカルタ等遊具（日本語で遊ぶもの）

3. 事業予算

20万円（相手先負担10%程度）
地区世界社会奉仕委員会資金申請金額 10万円

4. 相手先RC NIISLEL RC（D3450）

国名 モンゴル国
担当者 BOLDBAATAR Sanjsuren

5. 協力RC 大阪天王寺RC

6. 実施経過

書籍収集 2007年10月～12月
収集総数698冊（大阪天王寺からの新書190冊）
百科事典60冊 図鑑40冊 お話絵本200冊
知育絵本100冊 等

書籍梱包 2008年1月27日（札幌大通公園RC有志）

書籍発送 2008年1月28日
（札幌南二条郵便局より中国経由船便）

段ボール 15箱 総重量350キログラム

書籍到着 2008年6月11日

四川大地震及び北京オリンピックの影響により到着が大幅に遅れた

ビデオ等購入 2008年7月24日

購入品 DVD15本 かるた10箱 日本語検定10冊

ビデオ等発送 2008年7月31日

（札幌南二条郵便局より成田経由航空便）

ビデオ等到着 2008年8月5日

7. 検証日及び検証方法

2008年9月2日 第23学校にて到着品の確認及び日本語教室にて日本語を学ぶ子供達に贈答品の使用方法説明

8. 支出明細

2008.1.27 梱包資材 4,946円 東急ハンズ

2008.1.28 書籍送料 97,450円 郵便事業(株)
15箱

2008.7.24 日本語教材 23,520円 紀伊国屋

2008.7.24 ビデオ等 39,689円 紀伊国屋

2008.7.24 かるた 7,352円 セントラル他

2008.7.31 航空運賃 10,200円 日本郵便(株)
合計 183,157円

※モンゴル側では、DVDプレイヤー等を購入して
います。

9. 報告者 札幌大通公園ロータリークラブ
担当者 田中利男



ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

■マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

深川 R C	成田 雅敏	会員(1回)	11月28日
	児島 俊一	会員(1回)	11月28日
羽幌 R C	成澤 卓爾	会員(2回)	11月28日
	武田 秀夫	会員(1回)	11月28日
江別西 R C	増山 柳	会員(1回)	11月7日
岩見沢 R C	北市 宗三	会員(2回)	11月28日
	小林 弘明	会員(3回)	11月28日
札幌北 R C	谷口 良一	会員(3回)	11月14日
札幌モーニング R C	藤森 敏昭	会員(1回)	11月21日
札幌手稲 R C	阿部 光行	会員(1回)	11月21日
	石田 誠	会員(5回)	11月21日
札幌東 R C	西村 孝治	会員(1回)	11月28日

■ポール・ハリス・フェロー

深川 R C	大西 祥太	会員	11月28日
羽幌 R C	工藤 喜一	会員	11月28日
	忠津 章	会員	11月28日
岩見沢 R C	山本 辰勇	会員	11月28日
伊達 R C	浅水 勝男	会員	11月21日
室蘭北 R C	菅原 悦子	会員	11月28日
森 R C	近藤 宣明	会員	11月7日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

■米山功労者

深川 R C	林 憲雄	会員(1回)	11月27日
羽幌 R C	田原 昇一	会員(3回)	11月25日
砂川 R C	畠山 豊	会員(1回)	11月27日
	高橋 秀明	会員(1回)	11月27日
	山田 信一	会員(2回)	11月27日
札幌 R C	伊藤 義郎	会員(4回)	11月20日
札幌北 R C	長太 義雄	会員(3回)	11月12日
	阿部 弘	会員(1回)	11月18日
札幌西 R C	石丸 修太郎	会員(2回)	11月4日
札幌手稲 R C	阿部 光行	会員(1回)	11月20日
	網干 要	会員(2回)	11月20日
札幌南 R C	青木 健次	会員(2回)	11月20日
	菊池 恒	会員(1回)	11月20日
	熊本 努	会員(2回)	11月20日
	黒田 忠	会員(2回)	11月20日
	クリステンセンターキル	会員(9回)	11月20日
	三浦 義昌	会員(1回)	11月20日
	中道 博	会員(1回)	11月20日
	澤田 隆一	会員(2回)	11月20日
	佐藤 源五郎	会員(4回)	11月20日
	山口 潔	会員(1回)	11月20日
函館東 R C	池垣 信一	会員(1回)	11月18日

新 入 会 員 の ご 紹 介

(敬称略)



深沢 彰吾
(余市RC)

■入会/ 7月2日
■職業分類/ 砕石業



菅 雅憲
(余市RC)

■入会/ 7月2日
■職業分類/ 信用金庫



北條 篤
(余市RC)

■入会/ 11月5日
■職業分類/ 自動車修理



石塚 正敏
(北広島RC)

■入会/ 7月1日
■職業分類/ ホテル



小田 由三
(伊達RC)

■入会/ 12月2日
■職業分類/ 土木請負業



工藤 光二
(伊達RC)

■入会/ 12月2日
■職業分類/ 自動車学校

文 庫
通 信

(255号)

このたびは昨年度の会計報告をさせていただきます。
今後ともロータリー文庫をご活用くださるよう
お願い致します。

ロータリー文庫 2007~2008年度会計報告

(貸借対照表)

資 産		負 債	
現 金	68,512	雇用保険料預り金	8,833
普 通 預 金	5,177,135	社会保険料預り金	149,445
定 期 預 金	7,000,000	負 債 合 計	158,278
現 預 金 合 計	12,245,647	正 味 財 産	
仮 払 金	876,300	次期繰越剰余金	12,963,669
合 計	13,121,947	合 計	13,121,947

(収支計算書)

収 入		支 出	
会 費 収 入	29,088,150	委 員 会 費	1,849,500
雑 収 入	272,478	業 務 費	8,600,353
		貸 貸 管 理 費	9,464,069
		人 件 費	7,623,322
		予 備 費	0
当 期 合 計	29,360,628	当 期 合 計	27,537,244
前 期 繰 越 収 支 差 額	11,140,285	当 期 収 支 差 額	1,823,384
収 入 合 計	40,500,913	次 期 繰 越 収 支 差 額	12,963,669

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

1月のロータリーレート 1ドル=88円

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2008.11.30	増減	内女性	
1	深 川	4	36	36	0	3	85.15
	羽 幌	4	48	48	0	1	92.42
	妹 背 牛	4	9	9	0	0	91.66
	小 平	4	14	14	0	0	71.43
	留 萌	4	45	45	0	0	79.66
小 計			152	152	0	4	84.06
2	赤 平	4	29	28	-1	1	88.00
	芦 別	4	44	44	0	0	90.38
	砂 川	4	52	55	3	0	94.55
	滝 川	4	99	100	1	2	77.00
	小 計			224	227	3	3
3	美 唄	4	38	38	0	0	84.30
	江 別	4	34	34	0	1	90.45
	江 別 西	4	27	29	2	3	93.96
	岩 見 沢	4	87	90	3	0	91.19
	岩 見 沢 東	4	34	35	1	4	89.88
	栗 沢	4	23	24	1	1	97.90
	栗 山	5	26	27	1	2	96.44
	当 別	4	34	34	0	0	93.39
	小 計			303	311	8	11
4	札 幌	4	117	126	9	0	97.52
	札幌あけぼの	4	18	17	-1	1	100.00
	札幌はまなす	4	25	25	0	4	80.44
	札 幌 北	2	43	44	1	6	89.29
	札幌モーニング	4	49	52	3	0	71.77
	札 幌 西	4	62	63	1	4	96.39
	札 幌 西 北	4	39	40	1	5	91.19
	札 幌 手 稻	5	34	35	1	1	95.38
	小 計			387	402	15	21
5	札 幌 東	4	120	125	5	0	96.06
	札 幌 清 田	4	18	18	0	4	100.00
	札 幌 幌 南	4	65	65	0	0	99.58
	札 幌 真 駒 内	4	35	36	1	3	95.71
	札 幌 南	2	92	93	1	0	93.97
	札幌大通公園	2	9	9	0	2	88.90
	札幌セントラル	4	14	14	0	6	64.20
	新 札 幌	3	32	32	0	3	90.91
	小 計			385	392	7	18
6	岩 内	4	21	22	1	0	76.77
	俱 知 安	4	46	46	0	4	71.41
	小 樽	4	69	70	1	0	90.77
	小 樽 南	3	73	72	-1	0	91.31
	小 樽 銭 函	4	21	21	0	2	75.00
	蘭 越	2	11	11	0	0	77.27
	余 市	4	39	42	3	4	85.50
	小 計			280	284	4	10

11月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,816人
当月末会員数(女性)	2,873人 (100人)
増加会員数	57人
当月平均出席率	85.70%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率	
			2008.7.1	2008.11.30	増減	内女性		
7	千 歳	4	63	64	1	3	80.90	
	千歳セントラル	4	35	35	0	1	88.40	
	恵 庭	4	39	40	1	0	75.65	
	北 広 島	4	17	17	0	0	92.65	
	長 沼	2	20	20	0	3	77.50	
	由 仁	4	10	11	1	1	95.00	
	小 計			184	187	3	8	85.02
8	え り も	4	22	22	0	0	93.17	
	三 石	3	15	15	0	1	97.78	
	様 似	4	23	24	1	1	93.70	
	静 内	4	72	73	1	1	77.43	
	浦 河	4	34	34	0	2	100.00	
	小 計			166	168	2	5	92.42
	9	伊 達	4	53	54	1	0	77.70
室 蘭		4	43	45	2	0	66.47	
室 蘭 東		4	41	41	0	0	85.60	
室 蘭 北		4	34	34	0	2	100.00	
登 別		4	31	31	0	2	83.87	
洞 爺 湖		4	9	9	0	0	81.00	
小 計			211	214	3	4	82.44	
10	函 館	4	87	89	2	0	73.45	
	函 館 亀 田	2	45	46	1	2	100.00	
	森		4	34	34	0	0	79.30
	七 飯	4	16	16	0	0	78.10	
	長 万 部	4	10	10	0	0	67.50	
	函館セントラル	4	24	26	2	1	57.69	
	小 計			216	221	5	3	76.01
11	江 差	4	19	19	0	1	77.60	
	函 館 五 稜 郭	4	55	57	2	0	100.00	
	函 館 東	4	45	46	1	4	81.93	
	函 館 北	4	30	30	0	0	91.38	
	北 斗	4	19	17	-2	2	63.24	
	松 前	3	5	5	0	0	60.00	
	小 計			173	174	1	7	79.03
12	白 老	4	26	27	1	0	75.80	
	苫 小 牧	4	50	54	4	2	75.97	
	苫 小 牧 東	4	25	26	1	2	87.50	
	苫 小 牧 北	4	34	34	0	2	92.97	
	小 計			135	141	6	6	83.06
合 計			2,816	2,873	57	100	85.70	

2008-2009年度 地区カレンダー

〈2009年1月～6月〉

1月 ロータリー理解推進月間

地区の行事

- 各クラブ半期報告、人頭分担金送金
青少年交換短期派遣生選考試験
- 10(土) 2009学年度米山奨学生選考試験(札幌)
17(土) 地区ガバナー補佐会議(札幌)
31(土) 財団学友帰国報告会(札幌)

国内行事・国際行事

- 18(日)～25(日) 国際協議会(米国・サンディエゴ)

4月 ロータリー雑誌月間

地区の行事

- 12(日) 地区協議会、地区会員増強セミナー(滝川)
10-11国際親善奨学生応募締切り
- 18(土) 米山奨学生カウンセラー研修会予定
- グループ内の行事・IM、クラブ周年行事
- 4(土) 第10・11グループ合同IM

2月 世界理解月間

- 23(月) ロータリー創立記念日、世界理解と平和の日

地区の行事

- 10-11国際親善奨学生応募開始
- 1(日) 2009-2010年度GSE派遣団員選考
10(火)～14(土) WCS検証ツアー(予定)
サッポロ・インターナショナルナイト参加(青少年交換)
- 21(土) 2009年3月終了米山奨学生歓送会予定
28(土) 地区チーム研修セミナー(砂川)
28(土)～1(日) 会長エレクト研修セミナー(砂川)

グループ内の行事・IM、クラブ周年行事

- 7(土)～8(日) 中学校スポーツ大会(札幌手稲RC)
21(土) 第4・5グループ合同IM
21(土) 第9グループIM
24(火) 洞爺湖RC40周年記念式典

5月

地区の行事

- 米山学友主催家族懇親会
10-11国際親善奨学生選考試験
- 国内行事・国際行事
- 1(金)～2(土) 第3700地区(韓国)地区大会
- グループ内の行事・IM、クラブ周年行事
- 17(日) 深川IRC50周年記念式典
17(日) 第1グループIM
羽幌RC30周年記念式典
長沼町国際交流フェスティバル

3月 識字率向上月間

世界ローターアクト週間(3/13を含む1週間)

地区の行事

- 28(土)～1(日) 会長エレクト研修セミナー/地区R財団セミナー、地区米山セミナー(砂川)
09-10国際親善奨学生オリエンテーション
青少年交換学生春期スキー・キャンプ(予定)
- グループ内の行事・IM、クラブ周年行事

- 7(土) 第7・12グループ合同IM
14(土) 札幌東RC50周年記念式典

6月 ロータリー親睦活動月間

地区の行事

- 14(日) 新旧地区委員長・ガバナー補佐合同引継会議(札幌)
ローターアクト地区年次大会
インターアクト地区年次大会
- 国内行事・国際行事
- 21(日)～24(水) 国際大会(英国・バーミンガム)
米山記念奨学会、理事会・評議員会
- グループ内の行事・IM、クラブ周年行事
- 17(水) 新札幌RC25周年記念式典
20(土) 白老RC30周年記念式典

《地区委員会委員の追加について》

地区ローターアクト委員会委員に12月1日付にて千歳セントラルRCの高塚信和会員が選任されましたので、組織図に追加をお願い致します。

《例会曜日・例会時間・例会場の変更等について》

- 砂川 RC：1月7日(水) 休会
1月14日(水) 夜間例会「新年交礼会」 18:30～
- 江別 RC：1月22日(木) 移動夜間例会「新年会」 18:30～
場所：野幌セレモニーホールはやし(江別市野幌町54番地の5)
- 岩見沢 RC：1月1日(木)、8日(木) 休会
1月15日(木)の例会は1月13日(火)の岩見沢東RC合同新年交歓会に振替
- 岩見沢東RC：1月6日(火) 休会
1月13日(火) 岩見沢RCとの新年合同交歓会 18:00～
場所：岩見沢平安閣
- 伊達 RC：1月6日(火) 休会
1月13日(火) 夜間例会「新年交礼会」 18:00～
- 室蘭北 RC：1月6日(火) 夜間例会「新年交礼会」 18:30～
場所：ホテルサンルート室蘭
- 白老 RC：1月6日(火) 休会
1月13日(火) 移動例会「雅楽演奏会」 12:30～
場所：白老八幡神社(白老町本町1-1-11)
1月27日(火) 移動夜間例会「新年家族例会」 18:00～
場所：しらおい経済センター(白老町大町2-3-4)
- 苫小牧 RC：1月2日(金) 休会
1月9日(金) 夜間例会「新年家族会」 18:00～
場所：グランドホテルニュー王子

編集後記

クラブの夜間例会は百様百態(小泉元首相流に言えばクラブは色々、例会も色々)。

七飯RCの名物例会に観月会なるものがある。文字通り名月を觀賞する会、平たく言えばお月見である。七飯RCの例会場は地区内きっての豪華を誇る名勝大沼湖畔に立つリゾートホテルである。名峰駒ヶ岳を見渡せる開放された総ガラス張りの例会場だ。その山の端に掛かる満月を一タ觀賞しながらの親睦会である。近隣のクラブにもお裾分けしようと呼びかけるうちに第10・11グループの全てのクラブの有志が集まるようになって早23年経つと言う。負けじと、森RCは春には当地へと相成った。森町の桜は渡島半島随一の松前を凌ぐ偉観だ。そこで春は森RC主催の観桜会、秋は七飯RC主催の観月会と成長した訳である。昨今は単なる親睦会では勿体ないと優れたスピーカーを呼び、正にIMばりの会となった次第である。

7月15日に江別西RCをスタートしたガバナー公式訪問が12月2日の札幌西RC(ホームクラブ)訪問を最後とし

て全スケジュールを完了した。半年に亘るクラブ行脚であった。その間随伴戴いたガバナー補佐の皆さん、又会長・幹事懇談会、クラブ協議会と公式訪問例会をセットして戴いた方々、又温かくお迎え下さった地区内全会員に心よりお礼を申し上げます。その間各種行事(全国レベルの諸会合、地区大会、IM、地区諸委員会、各クラブ周年式典等々)の超過密スケジュールの半年間であった。我々の心配を他所に無事に終えた矢橋ガバナーが心身ともに健康であるのを眼のあたりにして一同舌を巻いた。その余勢で残る任期を全うするよう祈念したい。

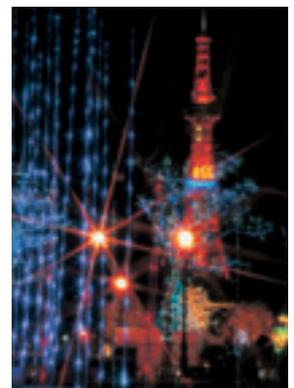
本号掲載のMy Rotary Note(塚原PG)の洞爺丸海難悲話を一読。目頭が熱くなった。上野一義ガバナー補佐(第10グループ)の手紙に触発されてその経緯を読み進んで行くうちにロータリーの根幹である職業奉仕に辿り着く次第。昨今、職業奉仕月間等で職業奉仕に困んだ卓話に悩んでいる人には恰好の教材と知った。この手の話心の琴線に触れるのは老いたる所以か。(大金)

ガバナー事務所

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512
E-mail:rid2510@nifty.com 執務時間:10:00~17:00(土・日・祝祭日休み)



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008～2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



表紙：大通公園イルミネーション
撮影：田宮哲夫 札幌西RC